

エコアクション21 環境経営活動レポート

活動期間：2024年3月～2025年2月



丸善エコアース有限公司

発行日 2025年4月1日



☎:0299-57-0530 FAX:0299-57-0092
MAIL:maruzen5383@river.ocn.ne.jp
URL : <http://www.maruzen5383.com>

agenda

目次



1. 環境方針	3
2. 組織の概要	4
3. 許可内容等	5-6
4. 一般廃棄物処理フロー	7
5. 環境経営目標	8-9
6. 環境経営目標 実績評価	10
7. 環境活動計画・実績、評価及び次年度の取り組み	11-14
8. 環境経営活動報告	15
9. 環境関連法規等の遵守状況及び評価結果並びに違反、訴訟等の有無	16
10. 代表者による全体の評価と見直し	17

1.環境経営方針

【経営理念】

当社は、社会に役立ち、人々の環境や暮らしを豊かにし、循環型社会形成、地域環境の保全に貢献することを目指し、環境保全活動に取り組めます。

【基本方針】

1. 地球温暖化防止の為に、節電・節水・エコドライブによる省エネ・省資源を推進し、低炭素社会の実現に貢献する。
2. 環境経営レポートを公開し、信頼と協調を図る。
3. 廃棄物の再資源化に取り組み、循環型社会の形成に貢献する。
4. 地域貢献活動に積極的に取り組み、社会とのコミュニケーション向上に努める。
5. 環境関連の法規、条例等の規則を遵守し、適正な業務を遂行する。

制定日：2019年7月31日

丸善エコアース有限公司
代表取締役 今泉 善弥

2.組織の概要

1. 事業者名及び代表者

事業所名：丸善エコアース有限公司
代表者名：今泉 善弥

2. 所在地

本社：〒311-3507 茨城県行方市羽生673-2
羽生営業所：〒311-3507 茨城県行方市羽生621-1
リサイクル工場兼芹沢営業所：
〒311-3501 茨城県行方市芹沢1591-48

3. 環境管理責任者及び連絡先

責任者：今泉 裕太
連絡先：0299-57-0530
FAX：0299-57-0092
メールアドレス：maruzen5383@river.ocn.ne.jp
メールアドレス：maruzeneco5383@kind.ocn.ne.jp
URL：<http://www.maruzen5383.com>

4. 事業内容

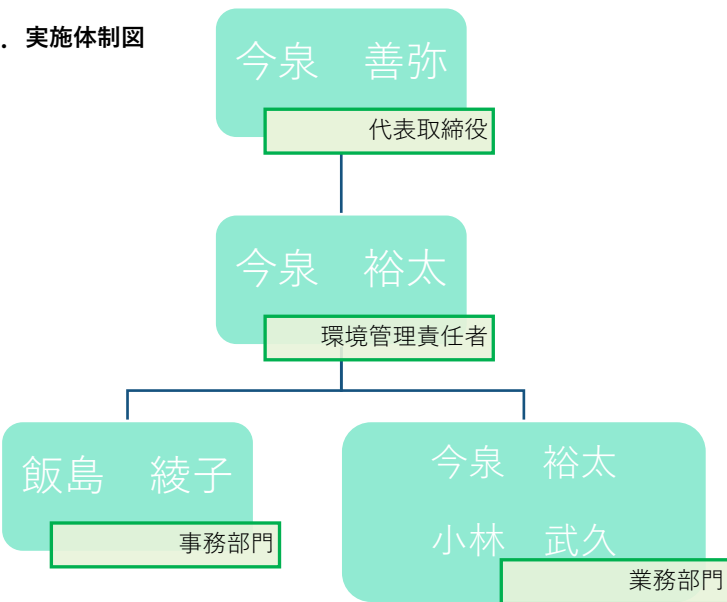
一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業、 再生資源回収業・一般貨物運送業

5. 事業規模

法人設立年月日：2003年3月25日
資本金：300万円
売上高：18,700万円（2024年3月～2025年2月）
従業員数：17名
事業所延べ面積：2207.24㎡



6. 実施体制図



責任者	責任及び権限
代表者	・環境経営に関する総括責任
	・環境経営システムの実施（設備・費用等）
	・環境管理責任者を任命
	・環境経営方針の策定、見直し
	・環境経営目標、計画を承認
	・代表者による全体の評価と見直し
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施及び管理
	・環境関連法規の取りまとめ表を承認
	・環境活動の取組結果を代表者へ報告
	・環境経営レポートの確認
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みを認識し、自主的に環境活動へ参加
事務部門	・環境レポートの作成
	・環境への負荷自己チェック表及び取組自己チェック表の実施
	・環境目標、活動実績の集計及びデータ管理報告

3.許可の内容等

(1) 一般廃棄物処理許可証

許可市町村	事業区分	許可年月日	有効年月日
行方市（29行環指令第17-1号）	委託 家庭ごみ収集運搬 事業系ごみ収集運搬	2023年3月27日	2027年3月31日
鉾田市（鉾田市指令第11号）	事業系収集運搬	2024年4月1日	2026年3月31日
かすみがうら市（第77号）	事業系収集運搬	2024年3月29日	2026年3月31日
小美玉市（小美玉環境指令第7号）	事業系収集運搬	2024年2月22日	2026年3月31日
鹿嶋市（鹿嶋対指令第49号）	事業系収集運搬	2024年3月27日	2026年3月31日
茨城町（町指令第25号）	事業系収集運搬	2024年2月5日	2026年2月4日

(2) 産業廃棄物収集運搬業許可

許可番号	廃棄物種類	許可年月日	有効年月日
茨城県 第0801119390号	汚泥、廃プラスチック類、紙屑、木屑、 動植物性残渣、金属屑、ガラス屑・コ ンクリート屑及び陶磁器屑、がれき類	2020年12月7日	2025年7月20日
千葉県 第01200119390号	汚泥、廃プラスチック類、紙屑、木屑、 繊維屑、動植物性残渣、ゴム屑、金属 屑、ガラス屑・コンクリート屑及び陶 磁器屑、がれき類	2023年11月27日	2028年11月26日

保有車両

事業計画の概要

許可区域内での事業系一般廃棄物、産業廃棄物の収集運搬事業を通じて適正な処理処分を促し、循環型社会への貢献、資源の有効利用の促進、地球温暖化の防止を図る。



脱着装置付コンテナ専用車

(アームロール)

・2台



キャブオーバー

(ユニック)

・1台



バン

(箱車)

・1台



塵芥車

(パッカー車)

・13台



リフト1.5t

・1台



10m³



3.5m³

2m³



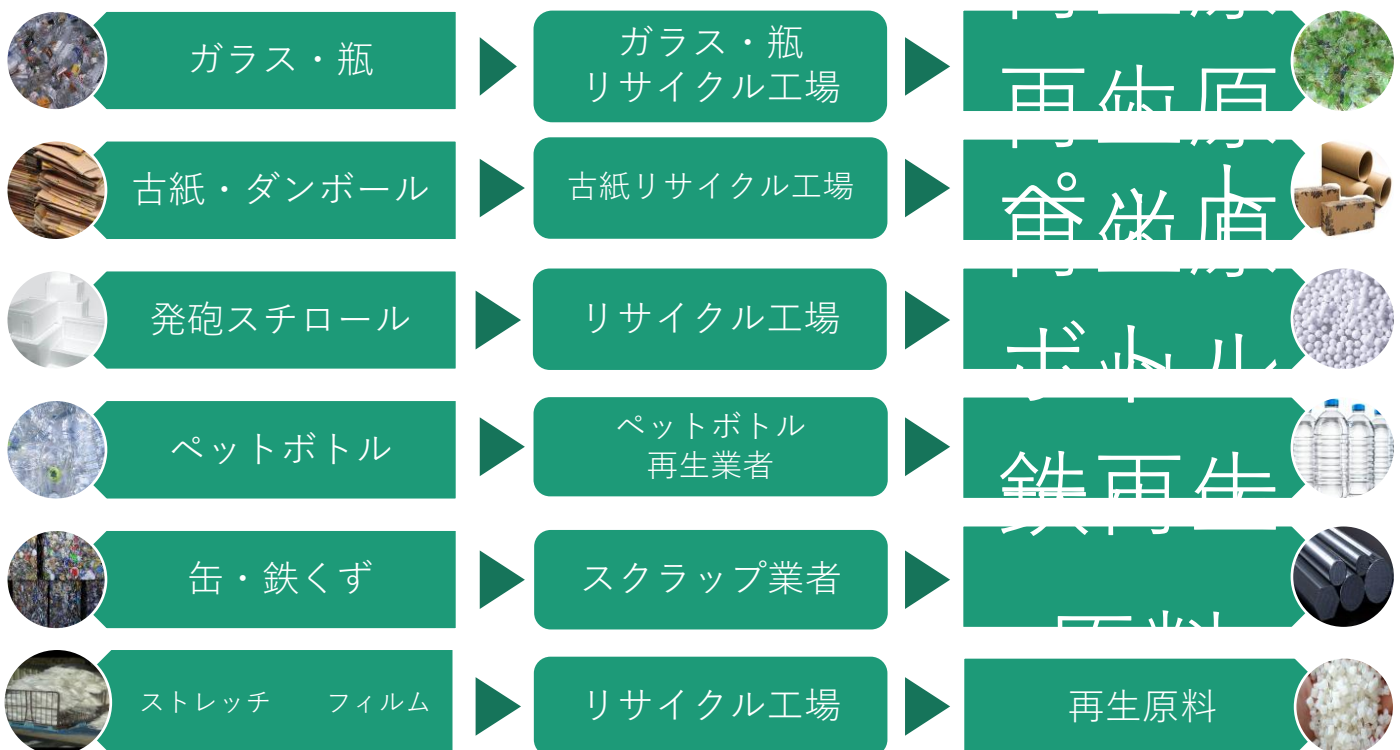
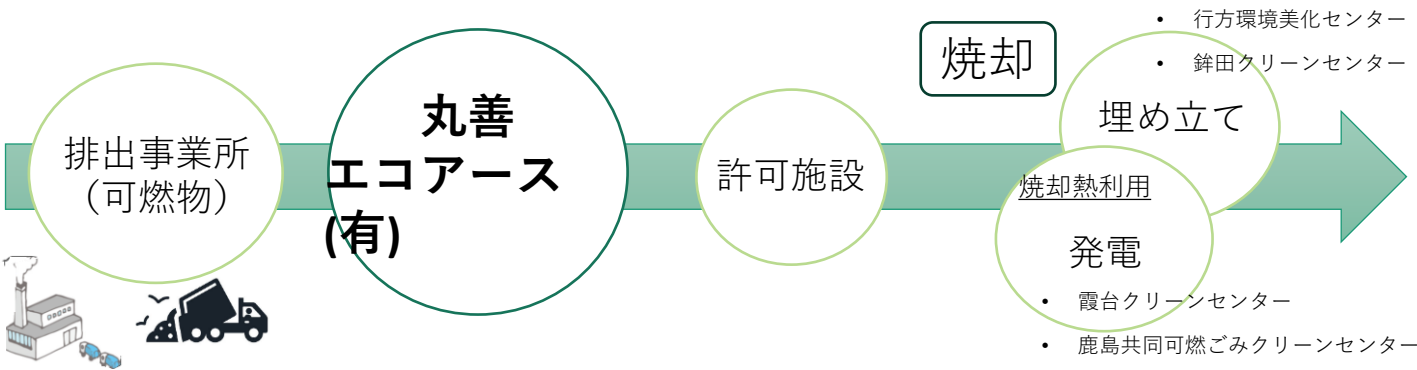
8m³

コンテナ

年間収集運搬量（t）

	2022年度	2023年度	2024年度
産業廃棄物	303	353	300
委託一般廃棄物	5,855	5,061	5,360
契約事務所一般廃棄物	1,310	1,181	1,124
リサイクル 再生利用	868	836	1,079

4.一般廃棄物処理フロー



5.環境経営目標

KPI項目		基準年			
		2021年度	2023年度	2024年度	2025年度
Co2排出量削減	Co2排出量	209,633	2%削減	3%削減	3%削減
	(kg-Co2/年)		205440.34	203344.01	203344.01
	売上あたりのCo2排出量	1233.1	2%削減	3%削減	3%削減
	(kg-Co2/百万円・年)		1208.438	1196.107	1196.107
電気使用量削減	電気使用量	7,587	2%削減	維持	維持
	(kwh/年)		7435.26	7400	7400
	売上あたりの電気使用量	44.63	2%削減	維持	維持
	(kwh/百万円・年)		43.7374	44	44
燃料使用量削減	L軽油使用量	79,777	2%削減	維持	維持
	(L/年)		78181.46	78180	78180
	L売上あたりの軽油使用量	469.28	2%削減	維持	維持
	(L/百万円・年)		459.8944	459	459
一般廃棄物の再生利用		793	2%向上	3%向上	4%向上
(t/年)			808.86	816.79	824.72
水使用量削減		94.24	2%削減	3%削減	3%削減
(m3/年)			92.3552	91.4128	91.4128
環境教育・コミュニケーション実施回数		12	2回増加	3回増加	現状維持
(回/年)			14	15	12
※Co2排出換算係数は、東京電力2018年度0.474(kg-Co2/kwh)を使用					

当社が設定している原単位

売上あたりのCO2排出量

= 年間CO2排出量 (kg-CO2/年) ÷ 年間売上高 (百万円)

売上あたりの電気使用量

= 年間電気量 (Kwh/年) ÷ 年間売上高 (百万円)

売上あたりの燃料使用量

= 年間燃料使用量 (L/年) ÷ 年間売上高 (百万円)

環境経営目標

エコアクション活動はSDGsで表現されている社会課題と連動している。KPI項目ごとに関連するSDGsのゴールを設定し、より広いエコアクション活動の推進に務める。

KPI項目	当社の取組み	SDGsゴール	
CO2排出量削減	電気使用量、燃料使用量、水使用量の削減	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
電気使用量削減	■ エアコンの温度設定 ■ OA機器スリープ設定 ■ 休憩時消灯 ■ 節電POP掲示 ■ エアコンフィルターの掃除	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
		12 つくる責任、つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する
		13 気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
燃料使用量削減	■ エコドライブ推進 ■ 収集運搬ルート効率化 ■ 車両点検	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
		12 つくる責任、つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する
一般廃棄物排出量削減	■ 分別の徹底 ■ リサイクルの徹底 ■ 自社紙使用量の削減 ■ FSC認証・MSC認証などを購入する ■ プラスチックごみの削減	9 産業と雇用創出の振興をつなぐ	レジリエントなインフラを整備し、持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る
		11 住み続けられるまちづくりを	住み続けられるまちづくりを
		12 つくる責任、つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する
		14 海の豊かさを守ろう	海の豊かさを守ろう
水使用量削減	■ 洗車時の節水 ■ 事務所にて節水POPの掲示	6 安全な水とトイレを世界中に	持続可能な消費と生産のパターンを確保する
		3 すべての人に健康と福祉を	すべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
環境教育・コミュニケーション実施回数	■ 従業員ミーティングの実施 ■ 育成指導 ■ 交通ルールを守り、事故を起こさない ■ 世界の状況を知る ■ 支援団体へ寄付 ■ ごみ拾い、会社周辺の清掃活動	14 海の豊かさを守ろう	海の豊かさを守ろう
		16 平和と公正をすべての人に	平和と公正をすべての人に
		17 パートナリーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発に向けてグローバル・パートナーシップを活性化

6.環境経営目標 実績評価

[評価基準]実施状況100%：○、80%以上：△、80%未満：×

KPI項目		基準年	単年度目標	単年度実績	実績評価	
		2021年度	2024年度	2024年度		
Co2排出量削減	Co2排出量	209,633	3%削減	3%削減	○	全体としては、Co2排出量を削減することが出来た。個別に見ると、電気使用量の増加が課題である。
	(kg-Co2/年)		203,344	202,917		
	売上あたりのCo2排出量	1233.1	3%削減	12%削減	○	
	(kg-Co2/百万円・年)		1196.1	1085.1		
電気使用量削減	電気使用量	7,587	維持	24%増	△	昨期を上回る電力消費量となった。パソコン、電気機器の増加。稼働率が上がったなどが考えられる。
	(kwh/年)		7,400	9,432		
	売上あたりの電気使用量	44.63	維持	16%増	△	
	(kwh/百万円・年)		44	51.8		
燃料使用量削減	L軽油使用量	79,777	維持	3%削減	○	今期は削減出来た。ドライバーの意識向上による成果。継続して取り組む。
	(L/年)		78,180	76,917		
	L売上あたりの軽油使用量	469.28	維持	9%削減	○	
	(L/百万円・年)		459	422.6		
一般廃棄物の再生利用		793	3%向上	35%向上	○	今期も向上出来た。次年度も取り組みを継続。
(t/年)			816.79	1078		
水使用量削減		94.24	3%削減	11%削減	○	今期は削減出来た。次年度も取り組みを継続。
(m3/年)			91.41	83.3		
環境教育・コミュニケーション実施回数		12	3回増加	—	△	今期未達。回数を増やすのではなく、1回のミーティングを濃いものにしていく方針へ。
(回/年)			15	10		

※Co2排出換算係数は、東京電力2018年度0.474（kg-Co2/kwh）を使用
化学物質は使用していない

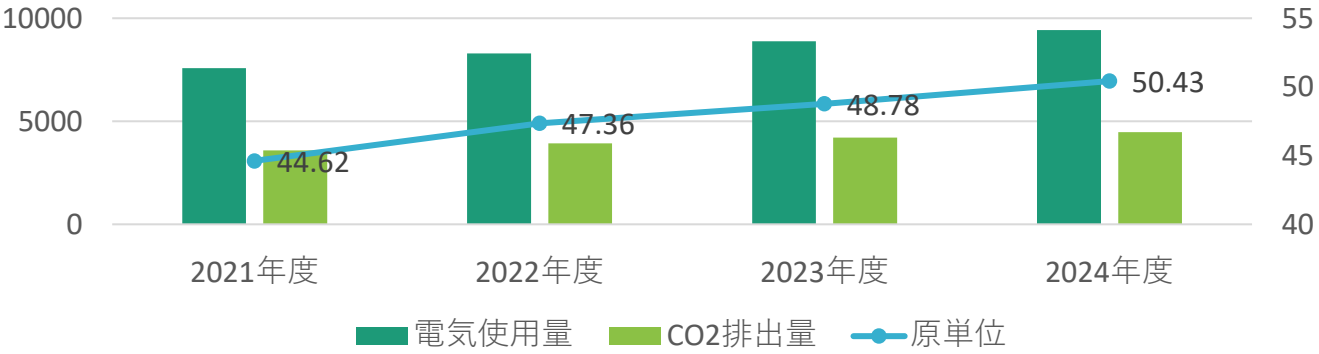
※水の基準実績は車両平均使用量
1台/回＝15分、1分＝12L
180L×3回/月＝540L/月
540L/月×17台＝9180L/月

110.16m3

7.環境経営活動計画・実績・評価及び次年度の取り組み

[評価基準]実施状況100%：○、80%以上：△、80%未満：×

電気使用量削減

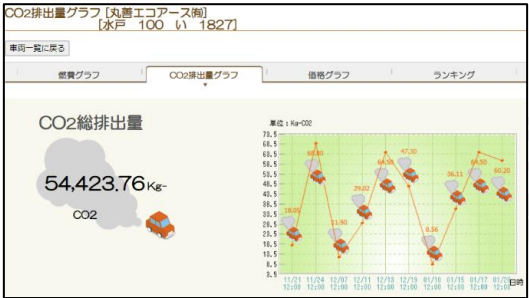
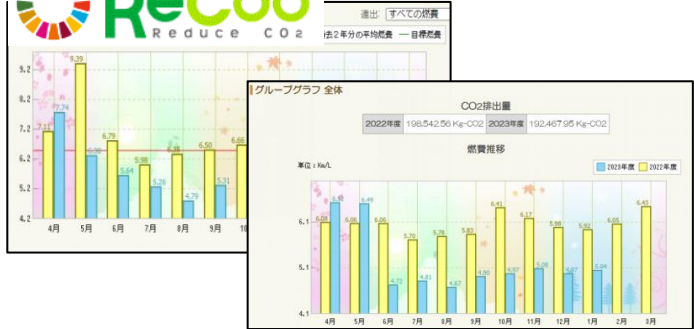
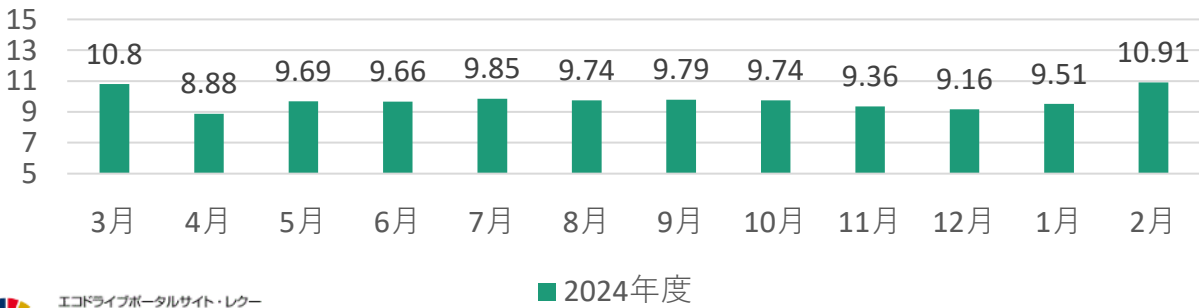


活動計画	実績	評価
エアコン温度設定管理	夏季：28度±1度/冬季20±5度を目安に設定。設定温度の見える化を実施。	○
エアコンフィルターの掃除	使用時期前後と、使用時は2週間に1度のフィルター掃除を実施。	△
OA機器のスリープ機能活用	PCや、プリンターの設定変更実施。	○

次年度の取り組み

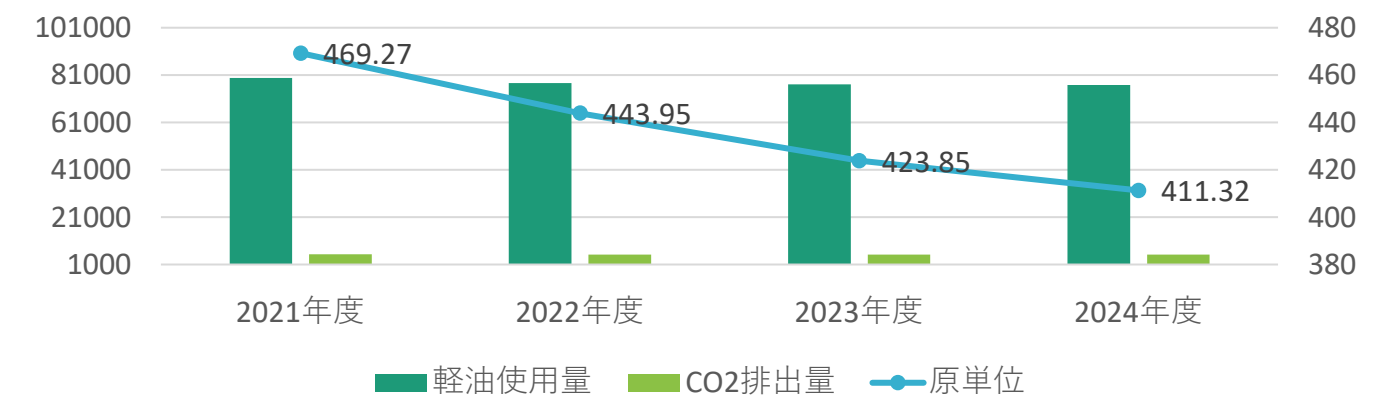
電気使用量に関しては、現在の取組みを継続していく。

2024年度 軽油1リットルあたりの運搬量



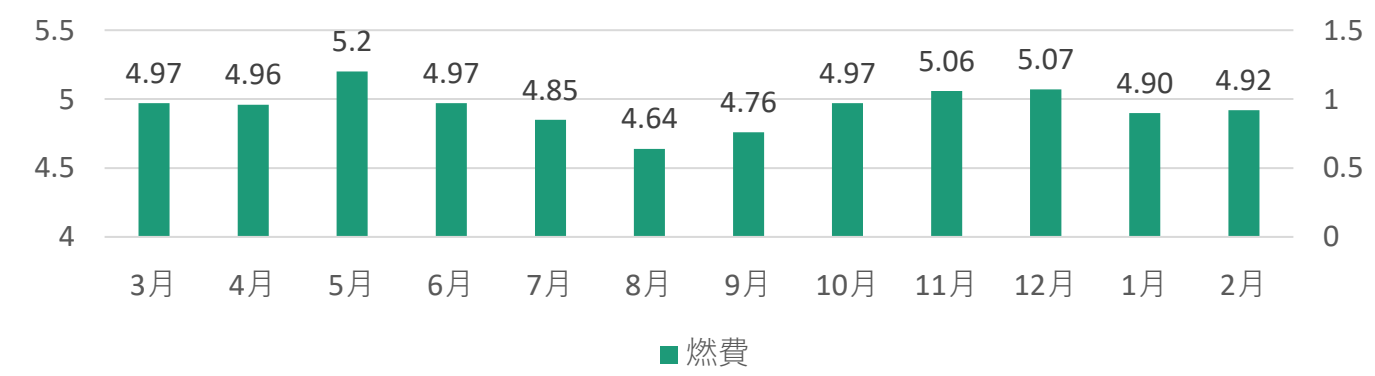
Recooを使用して過去最高・最低燃費、ベスト3燃費、CO2排出量、総走行距離、総給油量、総給油金額などの情報を知ることができます。

軽油使用量削減



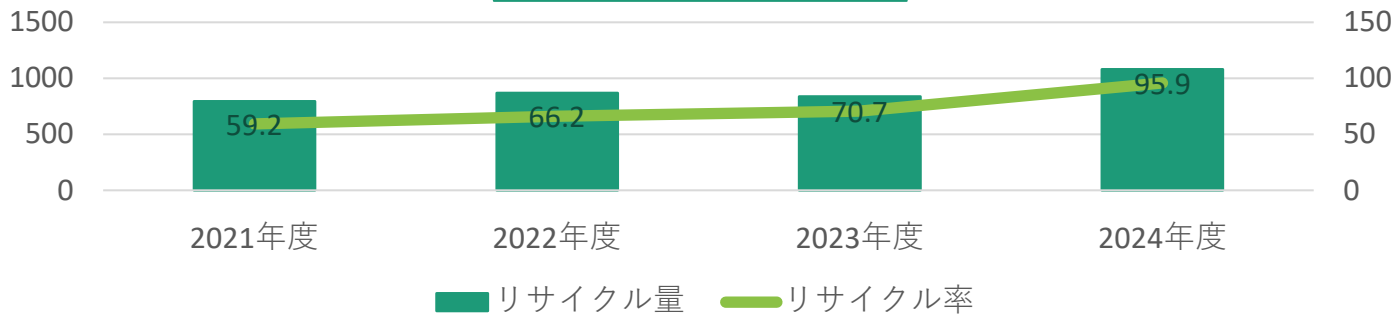
活動計画	実績	評価
エコドライブの実施	エコドライブ10のすすめを実践する。	○
日常点検、定期点検の実施	空気圧のチェック・過積載や速度管理	○
各車両の燃費管理	見える化。月1のミーティングにて、従業員の意識向上を図る。	○
次年度の取り組み		
次年度も取り組みを継続。		

燃費推移（km/ l ）2024年度



活動計画	実績	評価
エコドライブの実施	アイドリングストップ徹底。エコドライブ10のすすめを実践。	○
次年度の取り組み		
次年度も取り組みを継続。		

リサイクル量推移



活動計画	実績	評価
リサイクル率向上	取引先へのリサイクル推進説明をし、リサイクル率向上を図る。	○
次年度の取り組み		
次年度も取り組みを継続。		



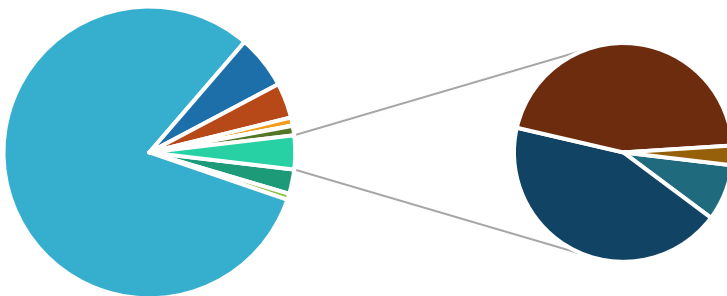
日本のリサイクル率

2021年・・・19.9%

2022年・・・19.6%

(出典) 環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等（令和4年度）」

リサイクル量構成

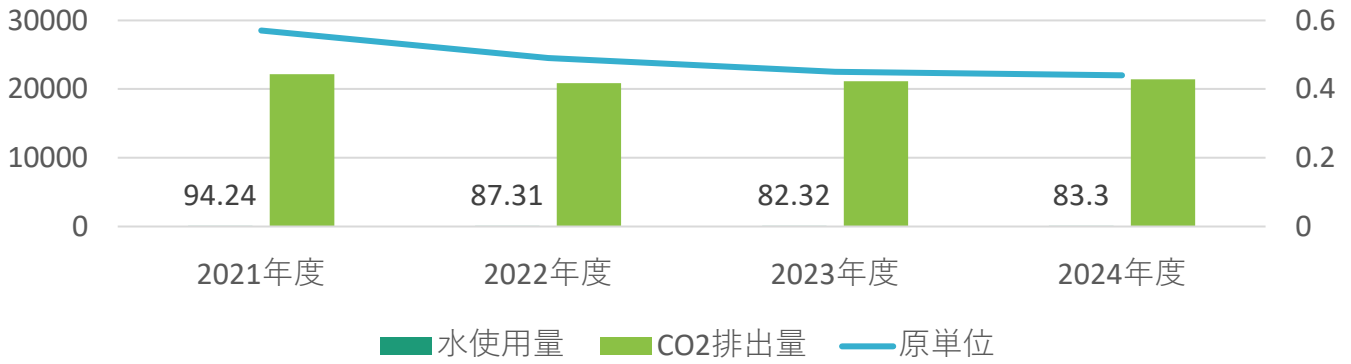


- ペットボトル
- 段ボール
- 雑誌
- 発泡スチ
- アルミ
- 古着
- スクラップ
- 新聞
- シュレッター
- ガラス・瓶
- スチール
- ストレッチフィルム

弊社では、
段ボールが
ダントツ多いです!!



水使用量削減



活動計画	実績	評価
洗車時の水流しっぱなしをせず。都度止める。	ハンドルの使用で、水を一旦止めることが出来る為うまく活用できた。	○
次年度の取り組み		
次年度も取り組みを継続。		

自社の水Co2排出量を身近なもので例えると!?

2024年度参考

●ガソリン車で221km走ったのと同じ排出量

●電球型LEDを6690時間点灯したのと同じ排出量

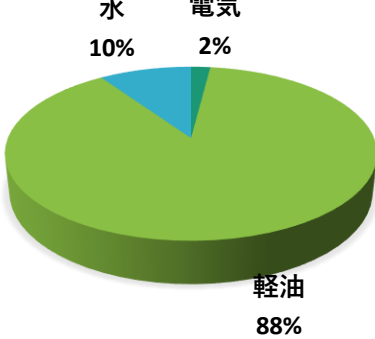


●このCo2排出量は、サッカーボール52個分と同じ重さ

●29本の木が1ヵ月に吸収するCo2と同じ量

8.環境経営活動報告

CO2排出量構成



低公害車導入状況

今後車両入替の際は、低燃費車両の導入をしていく。

産業廃棄物収集運搬車の用に供する運搬車に係る低公害車の導入状況
1. 産業廃棄物収集運搬車の用に供する運搬車に係る低排出ガスの導入状況
令和7年3月現在

全保有台数	17	100%
平成14年以前の規制適合車	1	0.58%
平成12年基準低排出ガス車	良☆	
平成12年基準低排出ガス車	優☆☆	
平成12年基準低排出ガス車	超☆☆☆	
平成12年基準低排出ガスPM75%低減ディーゼル車☆☆☆		
平成12年基準超低排出ディーゼル車☆☆☆☆		
平成13年規制適合車	10	58.80%
平成17年規制適合車		
平成17年基準低排出ガス車☆☆☆		
平成17年基準低排出ガス車☆☆☆☆		
平成17年基準低排出ガス重車☆☆		
平成17年基準適合/Nox・PM10%低減重車★		
平成20年規制適合車		
平成21年規制適合車		
平成21年規制適合/排出ガス10%低減車☆		
平成22年規制適合車		
平成26年規制適合車	6	35.2%

車両入替の際は、環境に配慮した車両を導入する。

2.産業廃棄物収集運搬車の用に供する運搬車に係る低燃費車の導入状況（令和7年3月現在）

運搬車の燃費低減レベル	台数（割合）
全保有台数	17 100%
平成27年度燃費基準達成車	7 41.10%
平成27年度燃費基準5%達成車	5 29.40%
平成27年度燃費基準10%達成車	1 0.58%

今後車両入替の際は低燃費車両の導入をしていく。

01

軽油使用量削減に向けて



日常点検・エコドライブ10のすすめを実践
空気圧チェック、不要な荷物が積まれているか等出発前のチェック。
日々のチェック項目に急発進急加速をしない、アイドリングストップを入れることで習慣化を図る。



ミーティングの実施

1人1人がエコドライブを行った結果を表す指標が燃費である。
車両別燃費と推移をグラフ化し、それを基に情報共有をしている。

02

5S活動の実施

本社周辺のゴミ拾い

年に数回ですが、本社周辺のゴミ拾いを行い、少しでも地域貢献へ繋がる様継続していきたい。



9.関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

過去3年間において関係法規に関する関係機関等からの指導・指摘等、訴訟もありません。適用法令を全てチェックし問題ないことを確認しており、これらの法規については随時見直しを行い、事業活動に適用される環境法規制・条例等の遵守に努めます。

	適用業務	法令等の名称	主な内容	確認結果
1	一般廃棄物（紙類）の排出・収集運搬	・ 廃棄物処理法 ・ 市条例	条例に基づく分別と排出	○
2	一般廃棄物（可燃物・不燃物・資源物）の排出・収集運搬	廃棄物処理法	・ 契約書の締結・更新 ・ 収集実績の報告 ・ 許可証の更新	○
3	産業廃棄物の排出	廃棄物処理法	・ 契約書の締結 ・ マニフェスト管理 ・ 報告書の提出	－
4	産業廃棄物の収集運搬	廃棄物処理法	・ 契約書の締結・更新 ・ マニフェスト/電子マニフェスト管理 ・ 事業報告書の提出 ・ 許可証の更新	○
5	収集運搬業	貨物自動車運送業輸送安全規則	・ 車両総重量が7ト以上又は、最大積載量が4ト以上の普通自動車である事業用自動車のタコグラフ搭載 ・ 過積載の遵守	○
6	収集運搬業	家電リサイクル法	・ 特定家庭用機器廃棄物の収集・運搬に関し、廃棄物の適正な処理を行う	○

10.代表者による評価・見直し・指示

【評価】

環境経営目標に沿って社内取組みの成果と評価している。

今後も社員全体一丸となりCo2削減、省エネ再資源化の取組みを継続し、持続可能な循環型社会への貢献を目指していききたいと思います。

【見直し・指示】

電気使用量については、目標達成出来ず今後も社内全体で取り組んでいく。

燃料使用量については、環境に配慮した車両の入れ替え等を行っていく。

Web site

2025年4月30日



代表取締役 今泉 善弥